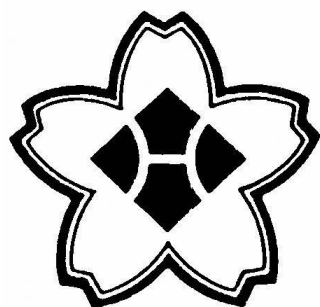


令和 8 年度

「運営に関する計画」



大阪市立矢田東小学校

令和 8 年 4 月

大阪市立矢田東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題令和7年度全国学力・学習状況調査から

- ・国語・算数・理科ともに全国平均・大阪市平均を下回った。前年度に少し差が開いたが今年度はまた近づくことができた。国語科の正答率は3教科で最も大阪市・全国平均に近かった。「言葉の特徴や使い方に関する事項」については大阪市・全国を上回り「我が国の言語文化に関する事項」についてはほぼ同じであった。平均無回答率は前年度よりも大幅に減った。算数科では「C測定」が最も正答率が高かった。他の領域については大阪市・全国と比較すると少し差が開く結果となった。平均無回答率については前年度よりも減少したが、「○は△の何倍か」、といった問題の記述式問題で無回答率が25%と高かった。しかしながら、国語・算数と2教科において無回答率が減少したことは、各問題に粘り強く取り組む姿勢がみられるようになったと考えられる。また理科においては、A区分(「エネルギー」「粒子」を柱とする領域)において無回答はほぼなく、B区分(「生命」「地球」を柱とする領域)において、理由や条件を書き表す記述式の問題においての無回答率が高くなってしまった。国語・算数において、正答率の層分布が右寄りの正規分布になってきている。また、これまで学校独自の取組として「矢田東漢字・計算クライミング」という漢字と計算に特化した、基礎基本の学習に力を入れて取り組んでいる。しっかりと学力の土台(基礎学力)を固め、学テや経年調査などの応用問題にも対応できる力が身につくことが、各テストの基本問題の正答率の高さに表れてきた。

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から

- ・令和7年度は、前年度から50m走に重点を絞って体力向上に取り組んでいる。5年生の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、男子は全体的に全国・大阪市の平均値より下回る記録で、女子は50m走とソフトボール投げで全国・大阪市平均を上回る結果となった。男子も50m走、ソフトボール投げでは、全国・大阪市平均近い結果を出すことはできたが、全体的に体力合計得点では下回ることとなってしまった。5年生でも顕著な差がみられたのは、長座体前屈・反復横跳びの2種目である。特に長座体前屈においては男女ともに、全国・大阪市平均から6～9cmと差が開いている。児童の柔軟性については全ての運動にも関わる分野でもあるので身につけておきたいところである。他の学年の体力テストの結果からも、本課題については取り組んでいくべきであると考えられる。
- ・令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査のアンケートの「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問には、男女ともに肯定的に回答している率が大変高い(男子96%・女子88%)。ただ、「体育の授業は楽しいですか」の質問には、男子は「楽しい」の回答は86.4%であったのに対して、女子は「楽しい」は64.7%であった。「やや楽しい」を入れても70.6%である。「どんなことがあったら体育の授業が楽しいと感じますか」という質問に対して「できなかったことができるようになった時」「いろんな種目を体験したとき」の回答が90%あった。体育の授業について、工夫改善の余地はまだあると考えられる。

令和7年度大阪市小学校学力経年調査から

- ・3～6年のすべての学年で昨年度と比較(※3年生は昨年度の3年生との比較)したところ、市平均を上回ることではできなかった。しかし学年ごとの経年で見ると、4教科の標準化得点は昨年度は下がったが、今年度は維持したか少し上回る教科もあった。この2年ほ

ど国語・算数において経年で細かく分析したところ、特に国語の基礎問題において確実に正答率は上がってきている。基礎学力の定着が徐々に見えてきていると考えられる。

- ・正答率が市平均の7割に満たない児童(区分Ⅳ)の割合は、令和6年度は33.5%であったが、令和7年度は26.8%と大幅に減少した。
- ・児童質問紙においては、「学校に行くことは楽しい」に対する質問の肯定的回答は、大阪市平均が83.1%に対して本校児童は89.9%、「自分にはよいところがある」は大阪市が82.6%に対して81.9%、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」は63.9%に対して60.5%となっている。「学校に行くことは楽しい」は大幅に大阪市平均より上回っているが、「困りごとや不安があるときに…」の項目については若干差があるように感じられる。いざという時に、学校では誰にでも何でも気軽に相談できる、という安心感を更に子どもたちに持たせてあげられるようにしていきたい。

学校の教育活動全体から

- ・児童の「基礎学力」の定着と「自主性」に重点を置いた「矢田東漢字・計算クライミング」を継続して実施している。取組内容や評価方法などについて教員間で話し合い、児童の実態に合わせたもの、興味関心を持つものを模索し実施している。継続的に実施していることで成果が出はじめ、また課題を見つけることができている。今後も継続的に実施し、それぞれの学年での基礎基本の学力の定着を図っていききたい。
- ・児童の学習用端末の活用は日常的に行われ、使用回数は確実に増えている。様々なアンケートにおいても「タブレットやパソコンを使った授業は楽しいですか」という質問に対して肯定的回答は90%以上である。今後は「楽しい」だけでなくタブレットの活用方法について、より効果的な取組について検討していき更に活用を深めていきたい。
- ・これまで読書活動の推進を継続的に行ってきたことで、児童が本に触れる機会が増え読書環境は大幅に改善された。その成果は経年調査のアンケートだけでなく、学力テストや児童アンケート・保護者アンケートなども含めて確認できている。全体的にみて、「読書が好きである」という質問への肯定的な回答は、概ね80%以上ある。毎年高学年の読書に対する意欲も肯定的回答は少しずつ上がっている。これまでの継続的な推進活動に成果がみられてきたと思われる。
- ・普段の休み時間の運動場の様子や、児童アンケート・経年調査などから、本校の児童は「運動が好き」な児童は多いといえる。しかしながら、これまでスのポーツテストでみられる数値的な結果は、大阪市や全国平均には届いていないことが多かった。「好き」であるが「結果」として表れていない要因としては、それぞれの動きについて「正しい」動きが身につけていないことが考えられる。今後も指導者の指導力向上と体育の授業の充実を図って、児童の体力の維持・向上だけでなく、「体の正しい動き」についての指導法も工夫していききたい。
- ・児童のきまりに対する意識は高まってきているが、通学帽子の着用や持ち物、身だしなみ等の学校生活における基本的なことについては、課題が見られる児童も少なくない。児童一人ひとりの課題については、家庭的な背景も含めスクリーニング会議Ⅰなどで教員間で共通理解を図り、継続した指導を教員全体で行っていく。今後も児童の良いところを認めつつ、アンケートの結果だけでなく、実質も伴った成果として伸ばしていけるような声かけや指導が必要である。
- ・これまでも、ゲストティーチャーを招いた出前授業や、学習の場や方法を工夫した体験活動を行うことができた。また、教職員の研修活動についても、授業力の向上に向けて公開授業を実施したり研究会に出向いたりして、さらに努めていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和11年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合(R7:88.6%)を90%以上にする。
- 令和11年度の全国学力・学習状況調査の「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合(R7:77.1%)を、80%以上にする。
- 令和11年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を令和7年度(80%)より5%増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和11年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において比較し、いずれの学年も(R7:3年0.75・4年0.85・5年0.84・6年0.83より)0.03向上させる。
- 令和11年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において比較し、いずれの学年も(R7:3年0.77・4年0.86・5年0.72・6年0.77より)0.03向上させる。
- 令和11年度の小学校学力経年調査の国語と算数の区分Ⅳ(平均正答率7割以下)の児童の割合をいずれの学年も令和7年度(3年66%・4年72%・5年83%・6年74.5%)73.9%より5%減少させる。
- 令和11年度小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」の項目に対して、肯定的に答える児童の割合(R7:90.3%)を、93%以上にする。
- 令和11年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合(R7:91.9%男子95.6%・女子88.2%)を95%以上にする。
- 令和11年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を令和7年度(48.0ポイント:男子48.6・女子47.42)より5ポイント増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令11年度末の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を70%以上にする。
- 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」により、毎月の教員の1人当たりの平均時間外勤務時間を20時間以下にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目に対して、肯定的に回答する児童の割合(R7:89.9%)を、90%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- ③ 大阪市学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(R7: 3年 0.75・4年 0.85・5年 0.84・6年 0.83より)より 0.01 以上向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(R7: 3年 0.77・4年 0.86・5年 0.72・6年 0.77より)より 0.01 以上向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査の国語と算数の区分Ⅳ(平均正答率 7 割以下)の児童の割合をいずれの学年も令和 7 年度(3年 66%・4年 72%・5年 83%・6年 74.5%) 73.9%より 1%以上減少させる。
- ④ 小学校学力経年調査・児童アンケートの「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」に対して、肯定的に答える児童の割合(R 7:90.3%)を、1%以上増加させる。
- ⑤ 令和 8 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査・児童アンケートの「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合(R 7:91.9%)を 92%以上にする。
- ⑥ 特に課題と考えられる長座体前屈を、令和 8 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、前年度(男子:27.5cm・女子:29.38cm)より 5cm伸ばす。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 67%以上にする。
- ② 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」により、毎月の教員の 1 人当たりの平均時間外勤務時間を 20 時間以下にする。

(様式2)

大阪市立矢田東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目に対して、肯定的に回答する児童の割合(R7:89.9%)を、90%以上にする。 ② 小学校学力経年調査の「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 ③ 大阪市学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%より増加させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 家庭との連携を密に行い、生活指導案件に対して早期解決を図る。 (1-1~4)	
指標 児童アンケートにおいて「学校は楽しいですか」という項目に対して、肯定的に回答する児童(R7:89.9%)を令和7年度以上にする。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 全学級で、毎月末に、いじめの認知件数と解消した件数などをまとめ、校内で共通理解を図り、組織的な対応を行う。 (1-1いじめへの対応)	
指標 児童アンケートの「友だちのいやがること(いじめや仲間はずれ)をしないように気を付けて行動できていますか」について、肯定的回答の割合(R7:94%)を94%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 全学級で、毎月末に、いじめの認知件数と解消した件数などをまとめ、校内で共通理解を図り、組織的な対応を行う。 (1-1いじめへの対応)	
指標 令和8年度の小学校学力経年調査・児童アンケートの「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。	

取組内容④ 「特別の教科」道徳、道徳教育の充実を図り、自己肯定感・有用感を持てるようにする。 (2-1 道徳教育の推進)	
指標 児童アンケートの「道徳で学んだことは役に立っていますか。」についての、肯定的回答の割合（R 7:9 2%）を9 0 %以上にする。	
取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 「特別の教科」道徳、道徳教育の充実を図り、自己肯定感・有用感を持てるようにする。 (2-1道徳教育の推進)	
指標 児童アンケートにおける「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%より増加させる。	
取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 年間を通じて複数回、児童の実態に合った体験的な学習や、ゲストティーチャーによる授業を実施するなど、体験活動の充実を図る。 (2-2キャリア教育の充実)	
指標 児童アンケートや経年調査の「将来の夢や目標を持っていますか」についての肯定的回答の割合（R 7:児:89.5%・経:89.4%）を8 5 %以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
改善点	

(様式2)

大阪市立矢田東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ① 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(R7:3年0.75・4年0.85・5年0.84・6年0.83より)より0.01以上向上させる。 ② 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(R7:3年0.77・4年0.86・5年0.72・6年0.77より)より0.01以上向上させる。 ③ 小学校学力経年調査の国語と算数の区分Ⅳ(平均正答率7割以下)の児童の割合をいずれの学年も令和7年度(3年66%・4年72%・5年83%・6年74.5%)73.9%より1%以上減少させる。 ④ 小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」という項目に対して、肯定的に答える児童の割合(R7:90.3%)を、1%以上増加させる。 ⑤ 令和8年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査・児童アンケートの「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合(R7:91.9%)を92%以上にする。 ⑥ 特に課題と考えられる長座体前屈を、令和8年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、前年度(男子:27.5cm・女子:29.38cm)より5cm伸ばす。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進め主体的な学びを育む。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和7年度(3年0.75・4年0.85・5年0.84・6年0.83)より0.01以上向上させる。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進め主体的な学びを育む。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	

指標 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和7年度（3年 0.77・4年 0.86・5年 0.72・6年 0.77）より 0.01 以上向上させる。	
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進を行う。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	
指標 児童アンケートや小学校学力経年調査において「学校の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。（友だちの意見を聞いて「わかった」「なるほど」「私とは違う考えだな」と思ったり、それを発表したりできていますか。）」についての、肯定的回答の割合（児:91%・経:90.3%）を90%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 「矢田東漢字・計算クライミング」の継続実施や学習教材データ配信の活用等を工夫して行い、児童のそれぞれの学年での基礎学力の定着を図る。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	
指標 「矢田東漢字・計算クライミング週間」で各学年の70%の児童が目標を達成するようにする。	
取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 年間を通じて様々な運動ができる場の設定を工夫したり、施設設備・教材教具を有効に活用したりして、体力・運動能力の向上を図る。 (5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)	
指標 児童アンケートや令和8年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合（R7:児91%・全国体力91.9%）を90%以上にする。	
取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】 全学年で毎学期に、2時間目の休み時間などを活用した業間体育を実施するなど、健康安全活動の充実（体力づくり）を図る。 (5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)	
指標 1学期に全学年で行っているスポーツテストの結果を分析し、長座体前屈の測定を年間で複数回行い、年度末の記録を年度当初の各学年の全国平均より向上させる。	
取組内容⑦【基本的な方向8 生涯学習の支援】 学級文庫の整備や、教職員が学校図書館司書と連携した読書活動の推進を行い、児童の読書意欲の向上を図る。 (8-2「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づく取組)	

指標 児童アンケートや小学校学力経年調査の「読書は好きですか。」についての肯定的回答の割合（Ｒ６：児８６．８％・経７８．２％）を８５％以上にする。	
取組内容⑧【基本的な方向５ 健やかな体の育成】 「令和８年度給食における食に関する年間指導計画」に則って、給食指導や栄養指導等を通して「食べ物と健康」のかかわりに対して理解を図り、児童の生活習慣の改善を図る。 （５-２ 健康教育・食育の推進）	
指標 児童アンケートなどで「食べ物のエネルギーになる『黄』、体を作る『赤』、体の調子を整える『緑』は知っていますか？」についての肯定的回答の割合（Ｒ７：８９％）を９０％以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
改善点	

(様式2)

大阪市立矢田東小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ① 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」の項目について、週3回以上と回答する児童の割合を67%以上にする。 ② 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026－2029】」により、毎月の教員の1人当たりの平均時間外勤務時間を20時間以下にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗 状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 タブレットやノートパソコンなどのICT機器の効果的な活用を図り、毎日の授業改善を実践する。 (6-1ICTを活用した教育の推進)		
指標 小学校学力経年調査の「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」の項目について、「週3回以上」と答える児童の割合をについて67%以上にする。		
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教育活動全体の検証・改善によって教育の質を向上させる。 (7-1働き方改革の推進)		
指標 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026－2029】」により、毎月の教員の1人当たりの平均時間外勤務時間を20時間以下にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
改善点		

(様式 3)

令和 8 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立矢田東小学校 学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標ごとの評価

年度目標：
年度目標：
年度目標：

3 今後の学校園の運営についての意見

--